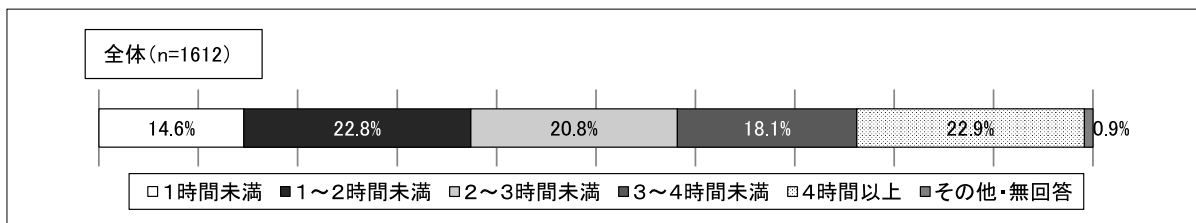


問13 子どもは朝食や夕食を誰と一緒に食べるか

【朝食】

○全体



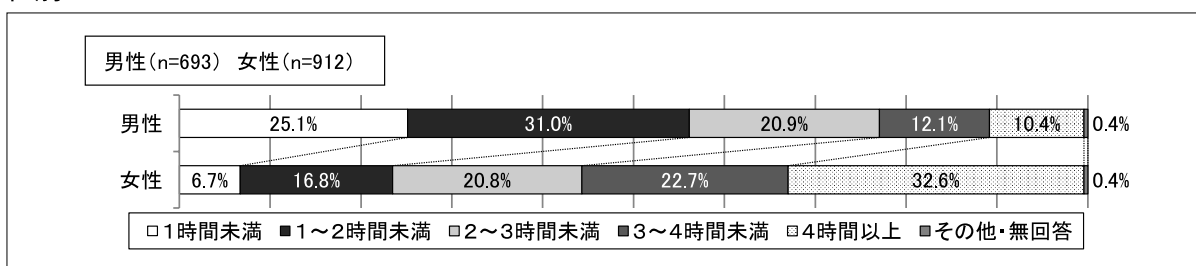
■ 朝食を家族全員または家族の誰か大人と食べている家庭は7割 ■

朝食については、「家族のだれか大人と食べる」が40.4%と最も多く、次いで「家族全員と食べる」が29.3%、「兄弟姉妹だけや子どもひとりで食べる」が25.6%であった。性別による違いは、特に認められなかった。

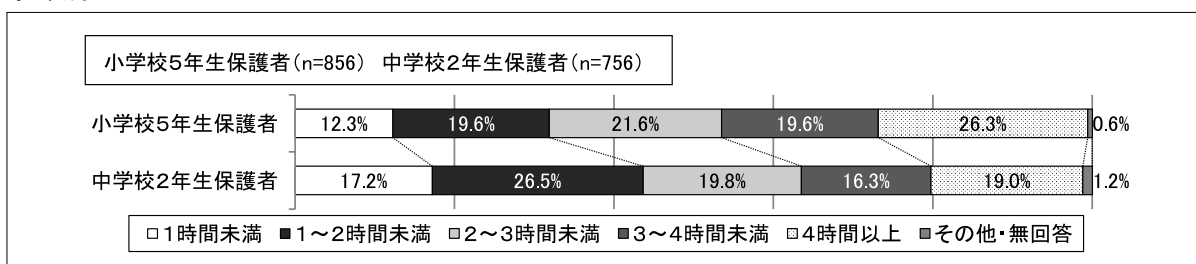
小学校5年生保護者と中学校2年生保護者の学年別では、「家族全員と食べる」、「家族のだれか大人と食べる」、「兄弟姉妹だけで食べる」と答えた小学校5年生保護者は90.5%、中学校2年生保護者は77.8%で、3選択肢とも中学校2年生保護者が少なかった。「子どもひとりで食べる」、「食べない」と答えた小学校5年生保護者は6.9%、中学校2年生保護者は18.1%で、2選択肢とも中学校2年生保護者が多かった。

家族形態別では、「核家族・拡大家族」と「ひとり親家族（核家族）・（拡大家族他）」の大差はなく、「拡大家族」と「ひとり親家族（拡大家族他）」との差はほとんどみられない。

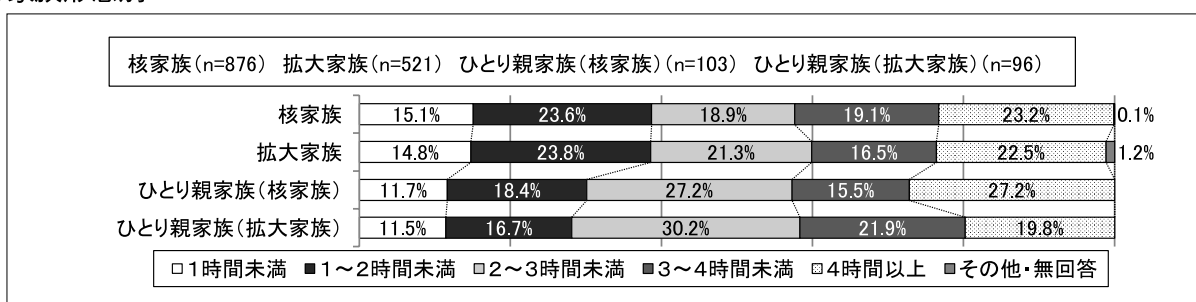
○性別



○学年別

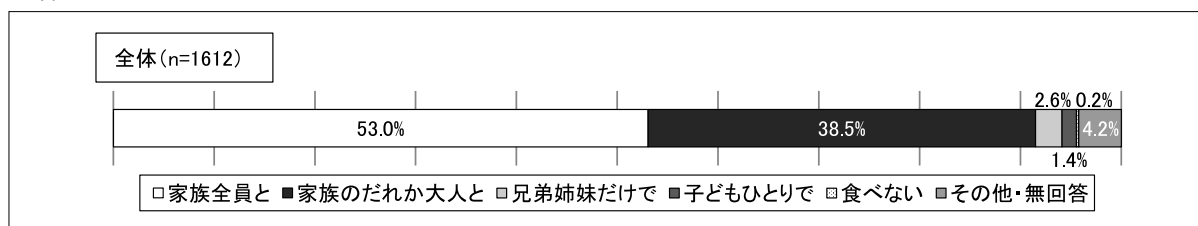


○家族形態別



【夕食】

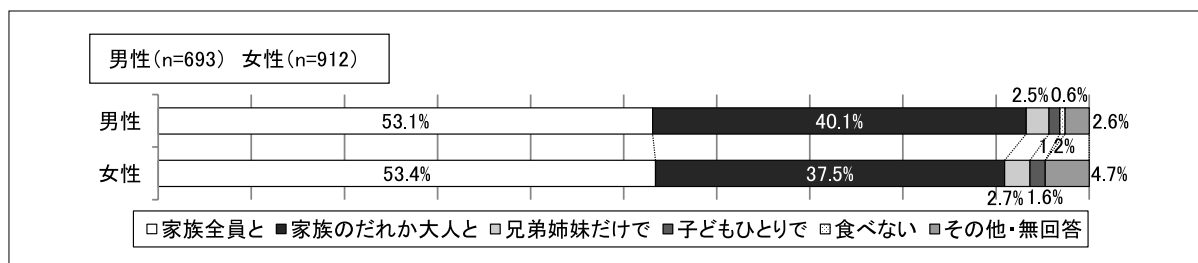
○全体



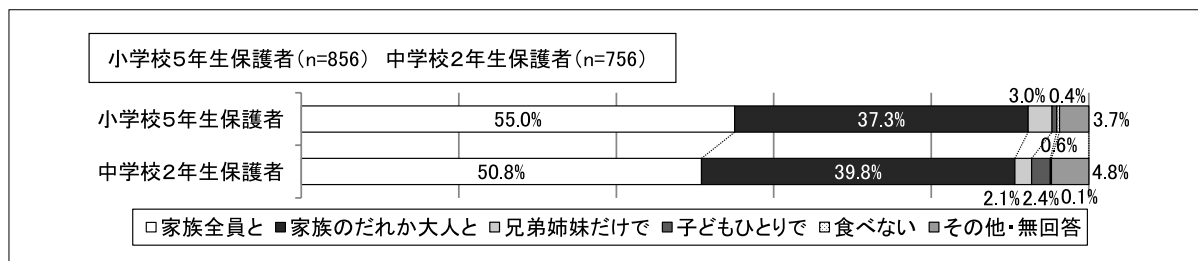
■ 夕食を家族全員または家族の誰か大人と食べている家庭は9割以上 ■

夕食については、「家族全員と食べる」が53.0%と最も多く、朝食と比較して1.8倍であった。「兄弟姉妹だけや子どもひとりで食べる」は4.0%で、朝食の25.6%から21.6ポイント減少していた。夕食について、性別、学年別、家族形態別とも、違いは特に認められなかった。

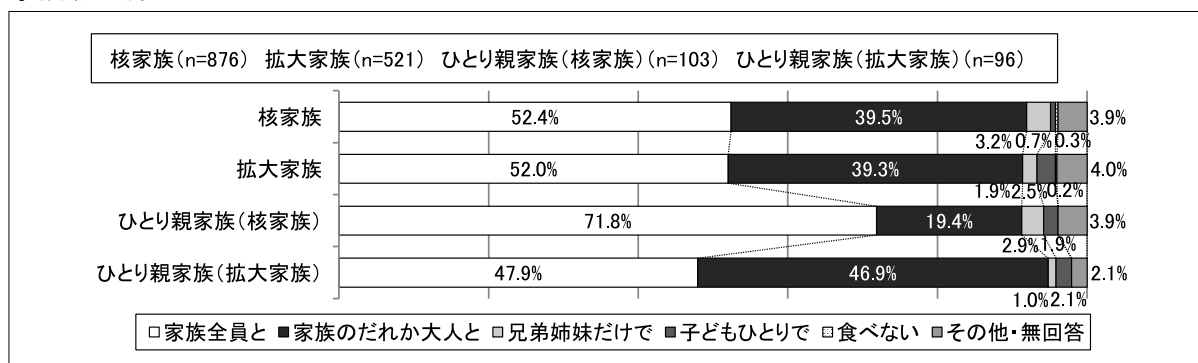
○性別



○学年別



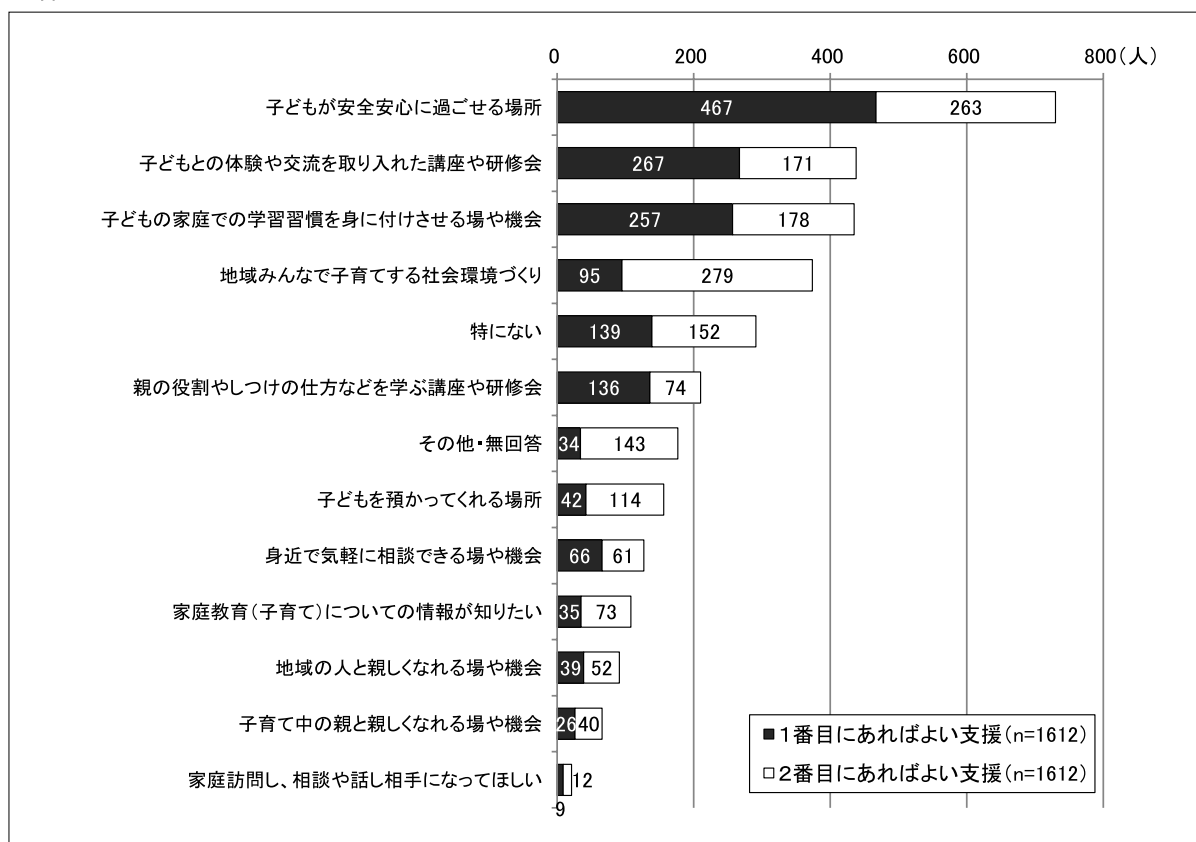
○家族形態別



4 家庭教育（子育て）支援について

問14 どのような家庭教育（子育て）支援があればよいと思うか（優先2つまで回答）

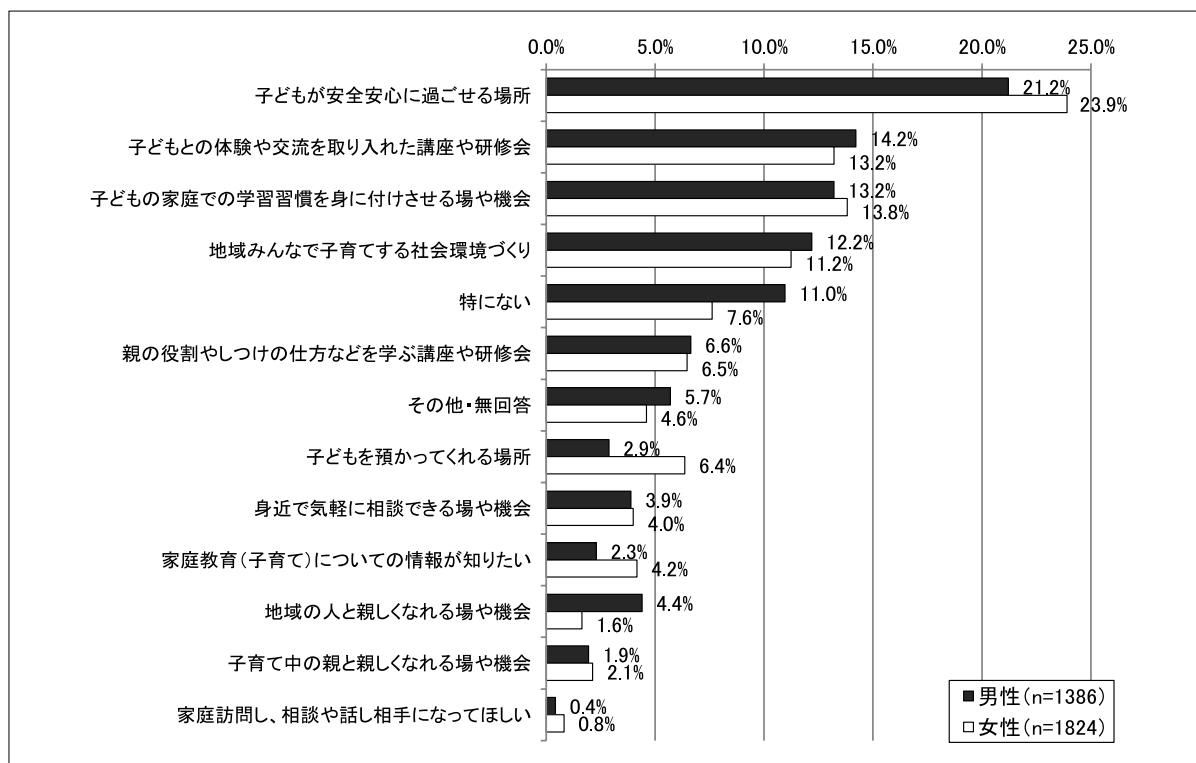
○全体



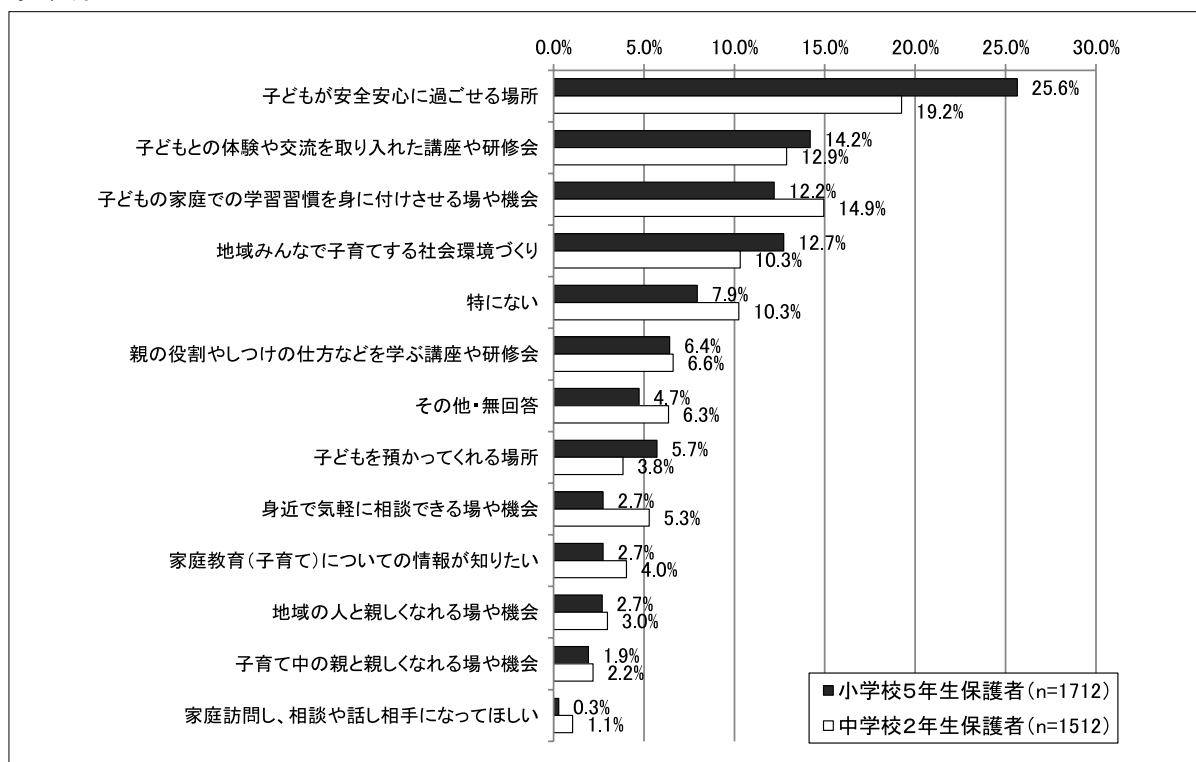
■ 希望する家庭教育支援は、「子どもが安全安心に過ごせる場所」 ■

希望する家庭教育支援について、1番目の希望は「子どもが安全安心に過ごせる場所」が467人(29.0%)と最も多く、次いで「子どもとの体験や交流を取り入れた講座や研修会」が267人(16.6%)であった。2番目の希望と合わせると、「子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会」が続く。「特にない」と答えた人も1割弱いる。

○性別



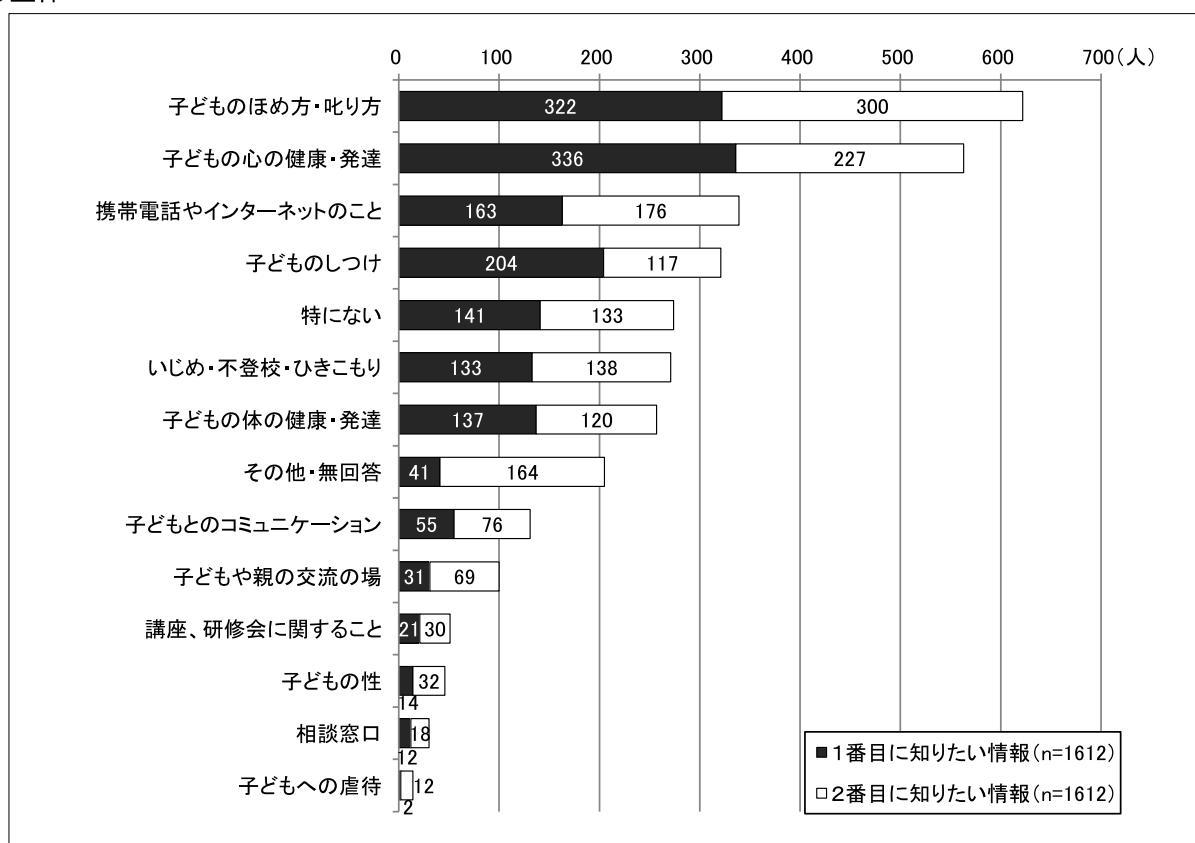
○学年別



性別及び学年別の回答者数は、「1番目にあればよい支援」の回答者数と「2番目にあればよい支援」の回答者数を合わせた人数である。

問15 家庭教育について知りたい情報はどんなことか（優先2つまで回答）

○全体



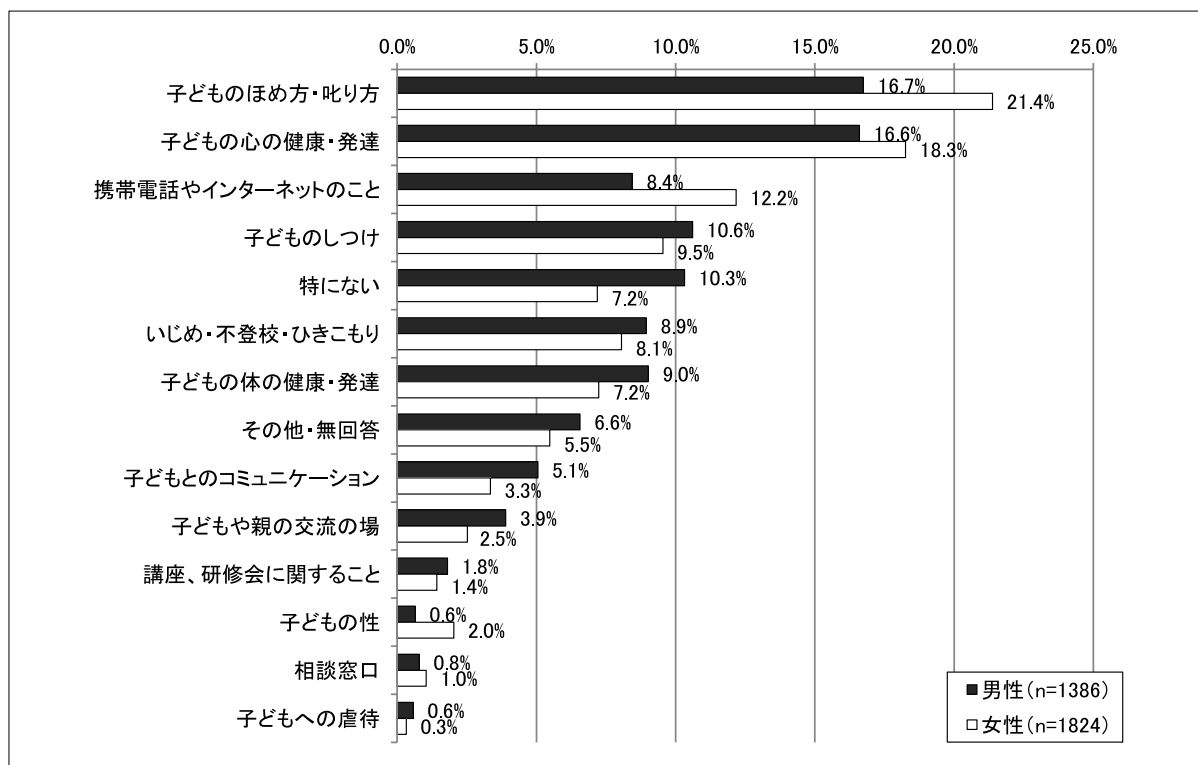
■ 知りたい情報は、「子どものほめ方・叱り方」と「子どもの心の健康・発達」 ■

家庭教育について知りたい情報は、1番目では「子どもの心の健康・発達」が336人（20.8%）と最も多く、次いで「子どものほめ方・叱り方」が322人（20.0%）であった。2番目に知りたい情報ではその順位が入れかわり、「子どものほめ方・叱り方」が300人（18.6%）、「子どもの心の健康・発達」が227人（14.1%）であった。

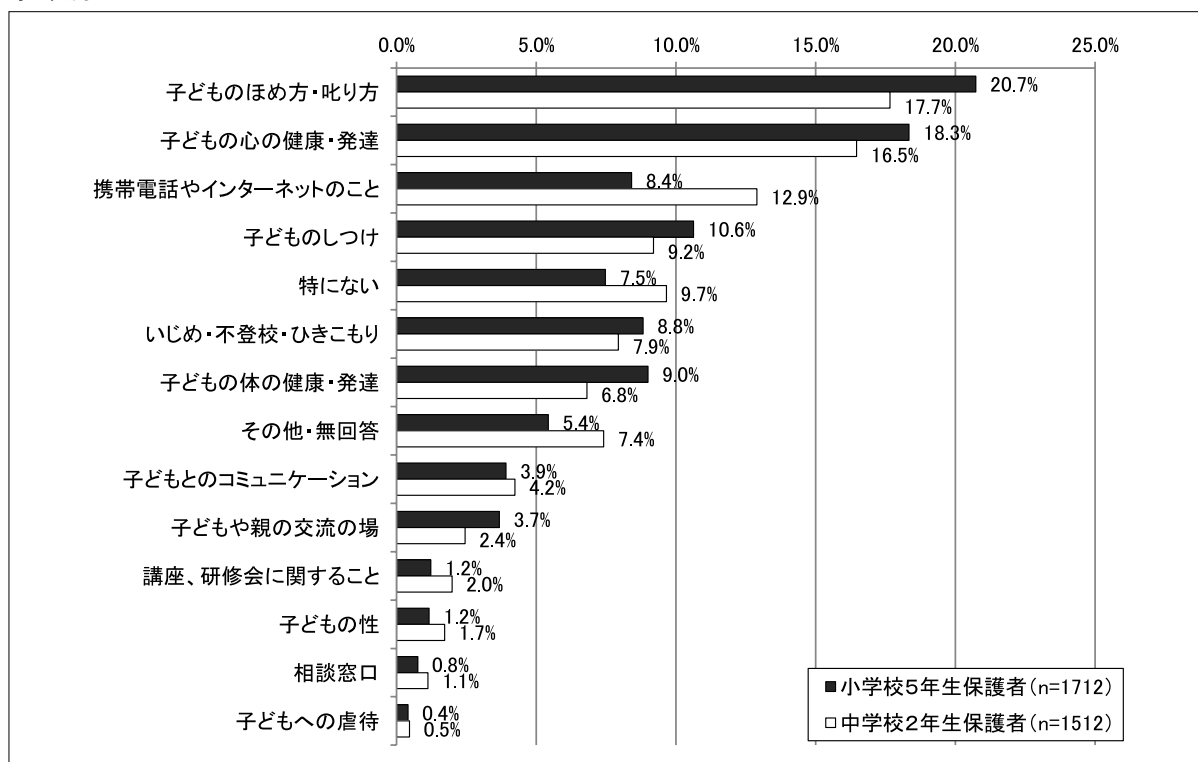
性別での割合差が最も多かったのは、「子どものほめ方・叱り方」で、男性の16.7%に対し、女性が4.7ポイント多い21.4%であった。

学年別での割合差が最も多かったのは、「携帯電話やインターネットのこと」で、小学校5年生保護者の8.4%に対し、中学校2年生保護者が4.5ポイント多い12.9%であった。

○性別



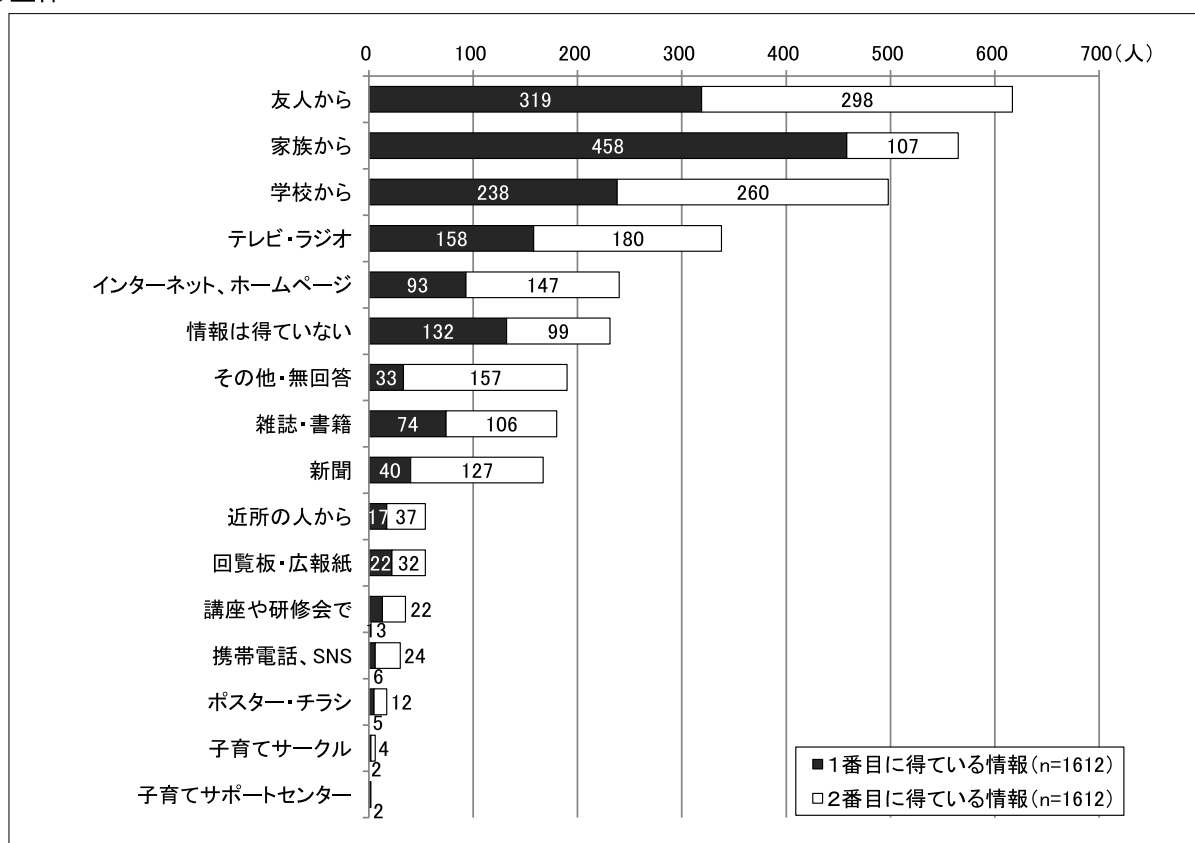
○学年別



性別及び学年別の回答者数は、「1番目に知りたい情報」の回答者数と「2番目に知りたい情報」の回答者数を合わせた人数である。

問16 家庭教育に関する情報をどのようにして得ているか（優先2つまで回答）

○全体

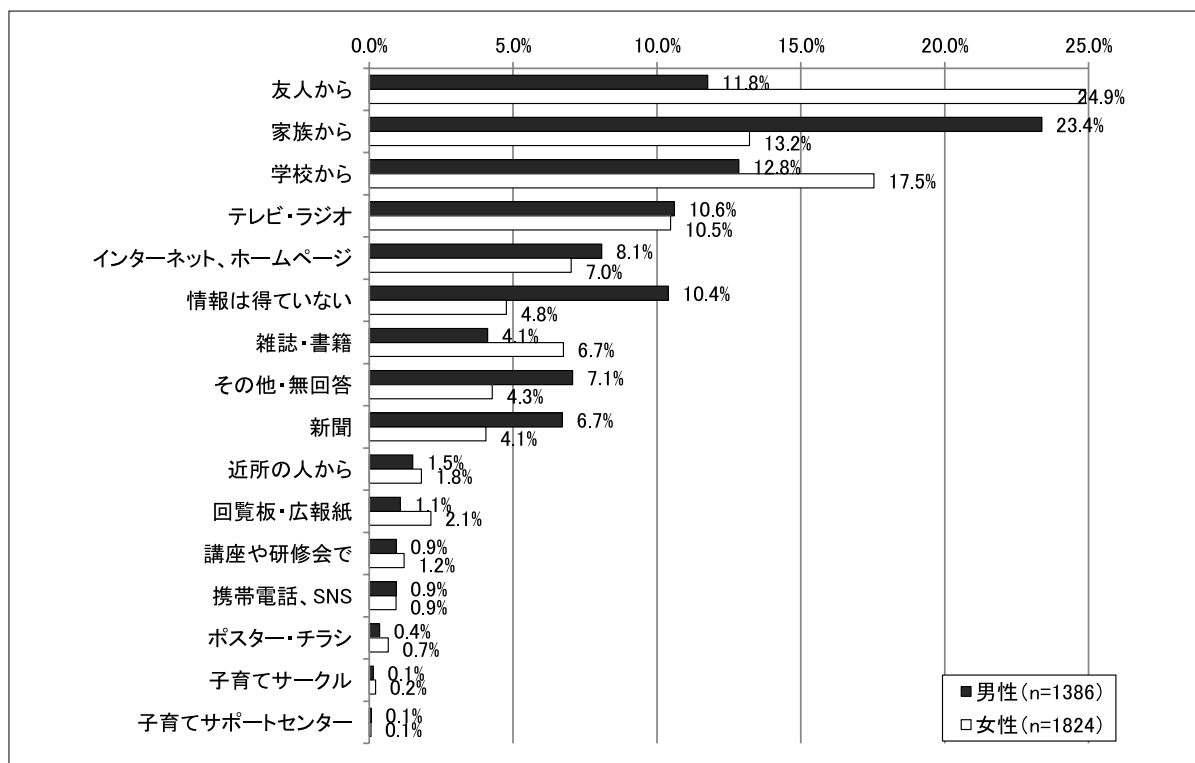


■ 家庭教育に関する情報は、「友人から」が最も多い ■

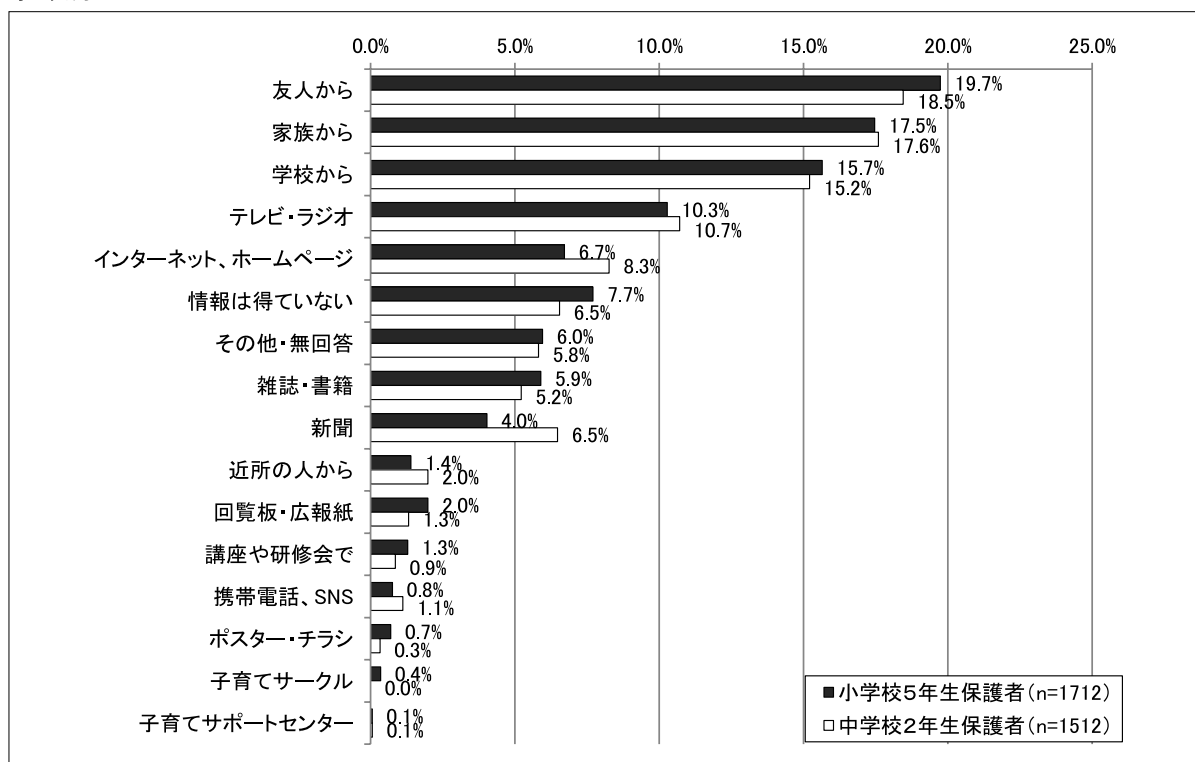
家庭教育に関する情報の入手方法は、1番目では「家庭から」が458人（28.4%）と最も多く、次いで「友人から」が319人（19.8%）、「学校から」が238人（14.8%）となっている。2番目の入手方法は、「友人から」が298人（18.5%）で最も多く、次いで「学校から」が260人（16.1%）、「ラジオ・テレビ」が180人（11.2%）であった。

性別での割合差が最も多かったのは、「友人から」で、男性の11.8%に対し、女性が13.1ポイント多い24.9%であった。学年別での割合差は特にみられなかった。

○性別



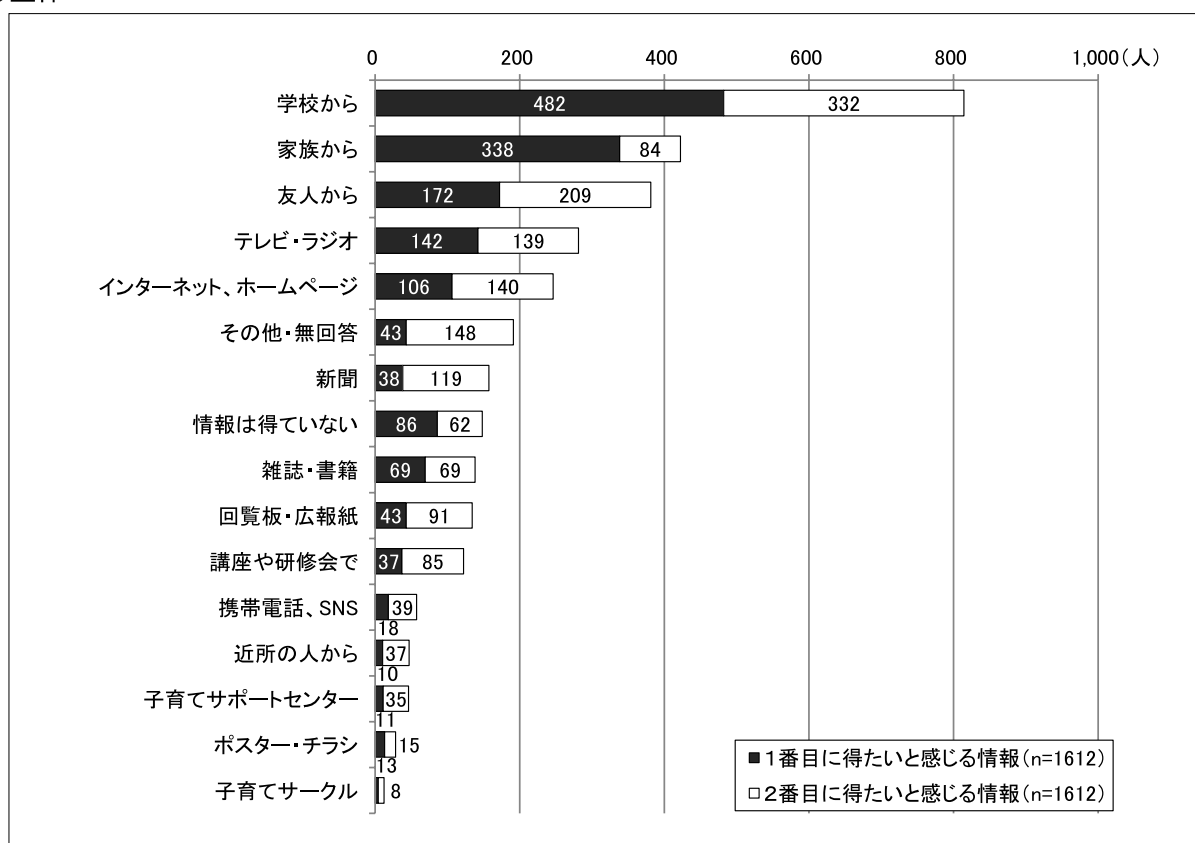
○学年別



性別及び学年別の回答者数は、「1番目に得ている情報」の回答者数と「2番目に得ている情報」の回答者数を合わせた人数である。

問17 家庭教育に関する情報をどのようにして得たいと感じているか（優先2つまで回答）

○全体

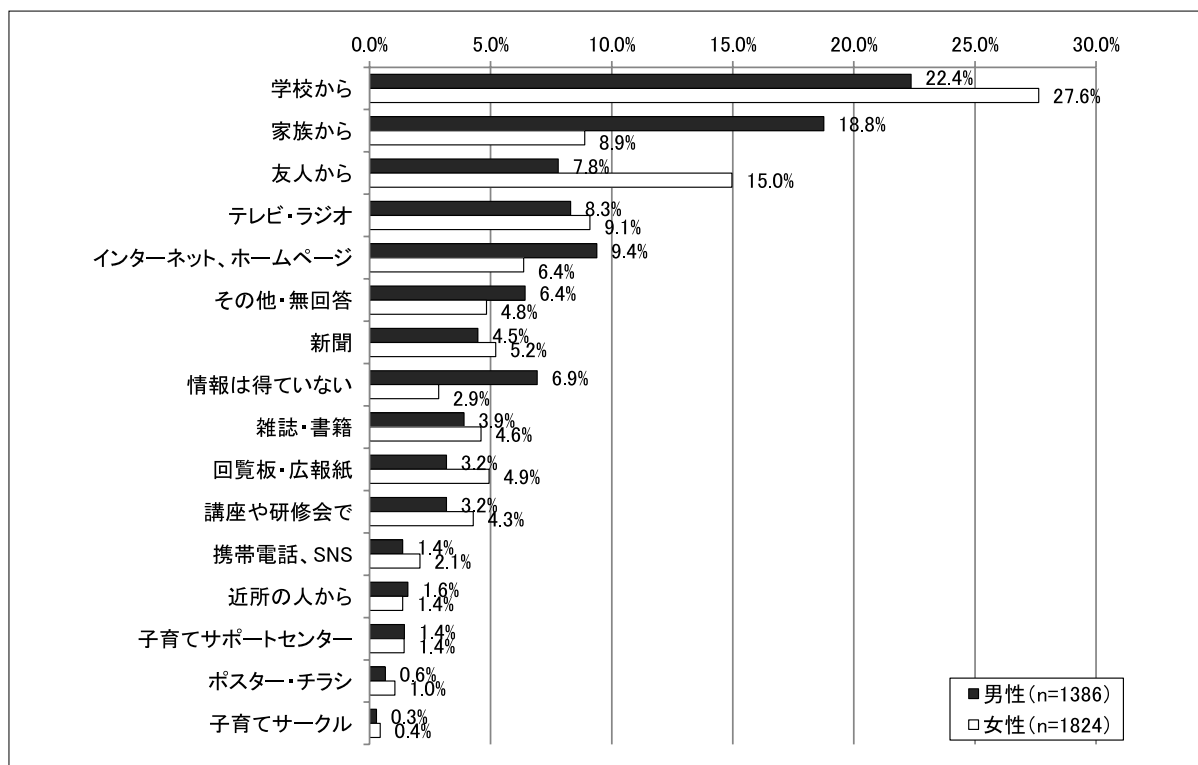


■ 家庭教育に関する情報は、「学校から」得たいが最も多い ■

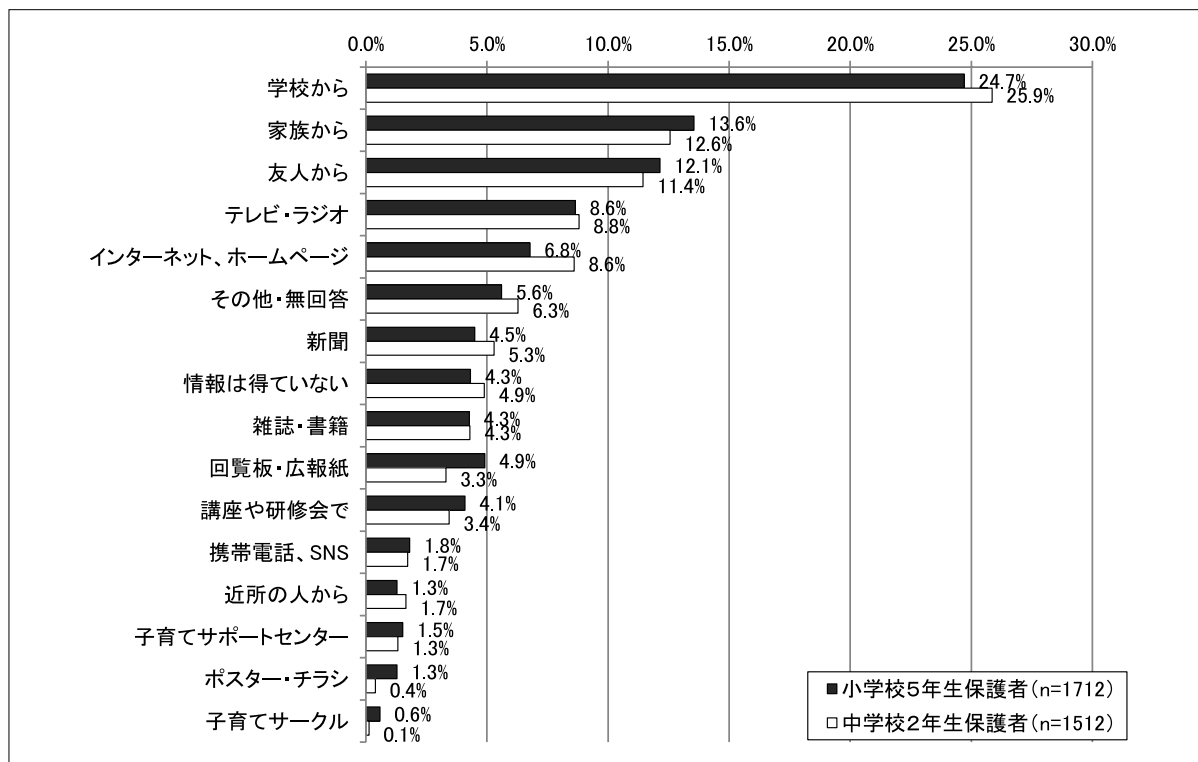
家庭教育に関する情報の希望入手方法は、1番目では「学校から」が482人（29.9%）と最も多く、次いで「家庭から」が338人（21.0%）となっている。2番目の希望入手方法は、「学校から」が332人（20.6%）で最も多く、次いで「友人から」が209人（13.0%）であった。

性別での割合差が最も多かったのは、「家庭から」で、男性の18.8%に対し、女性が9.9ポイント少ない8.9%であった。学年別での割合差は特にみられなかった。

○性別



○学年別

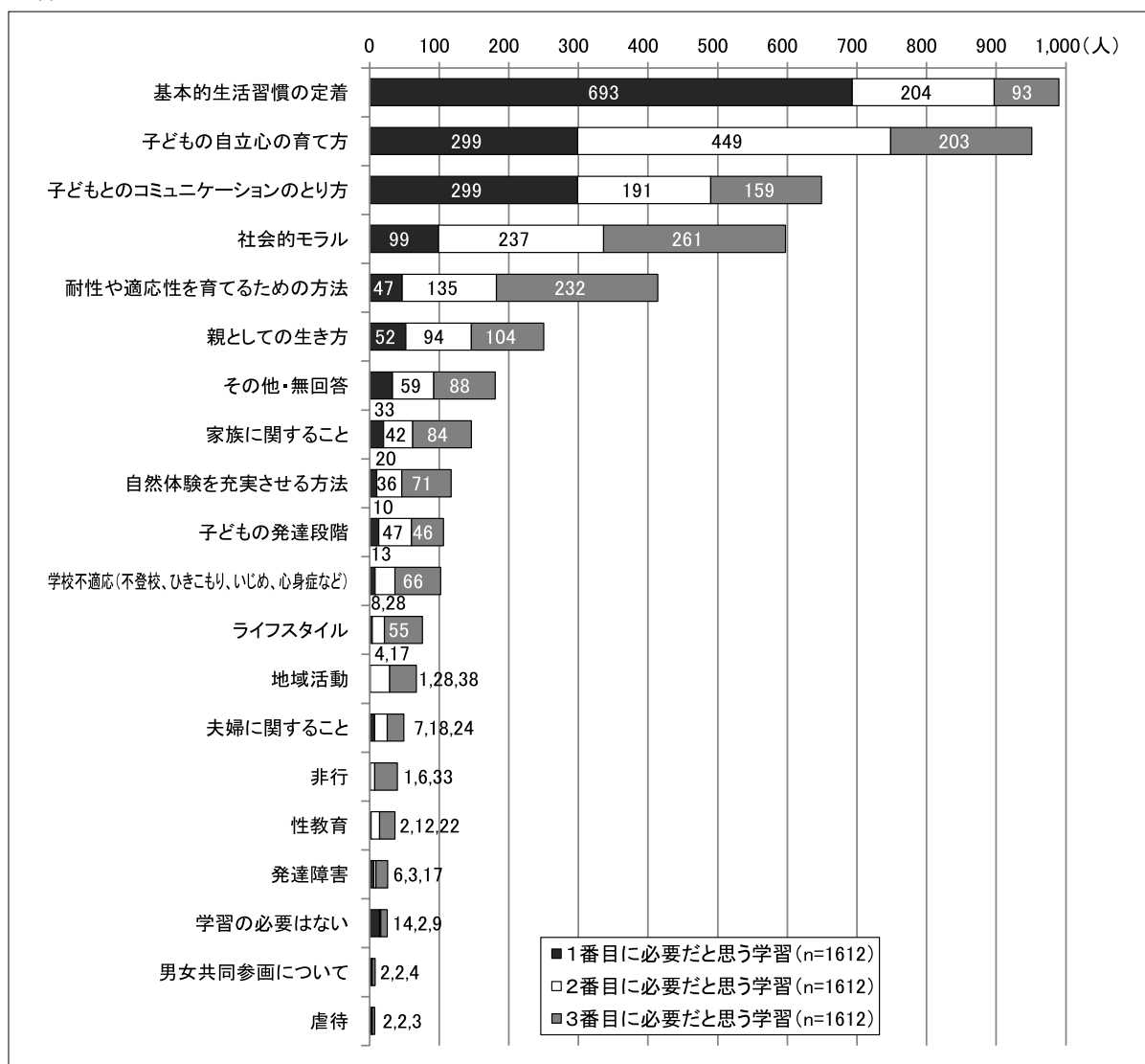


性別及び学年別の回答者数は、「1番目に得たいと感じる情報」の回答者数と「2番目に得たいと感じる情報」の回答者数を合わせた人数である。

5 家庭の教育力について

問18 子どもを育てるうえで、親にとって特に大切だと思う学習は何か（優先3つまで回答）

○全体

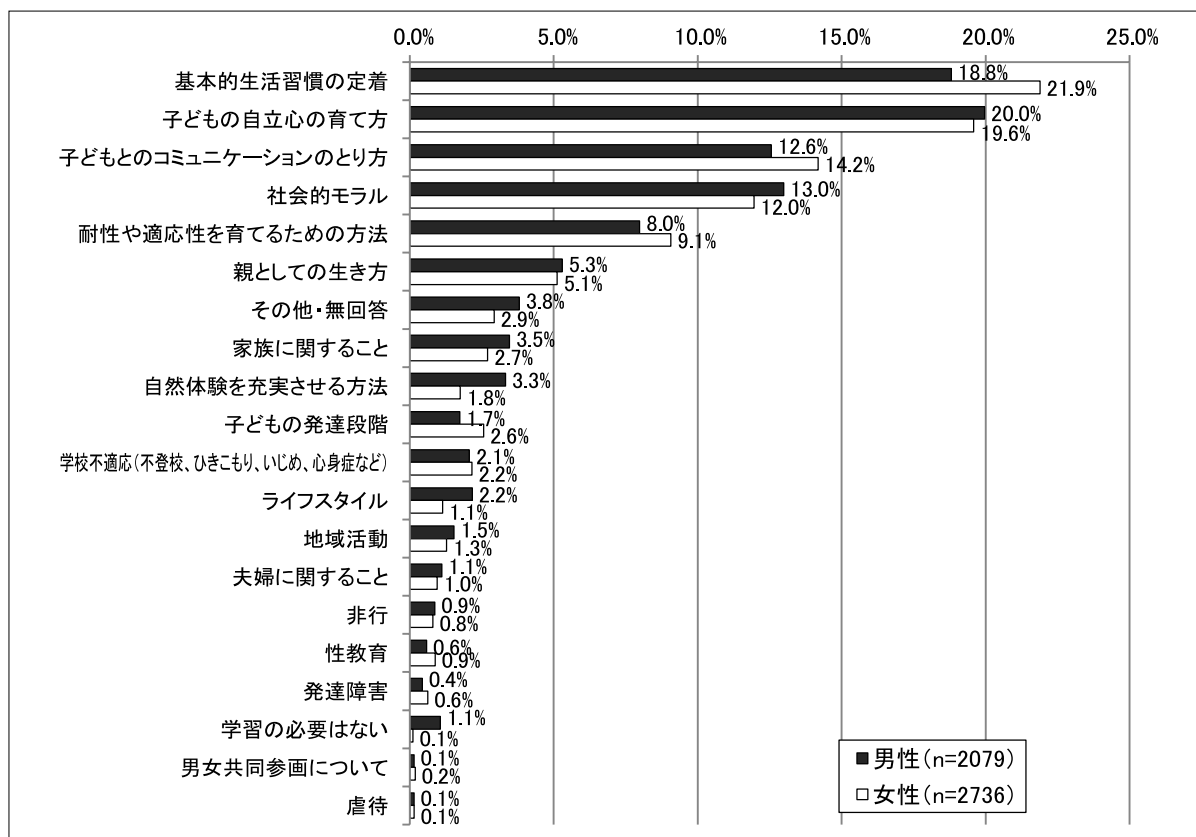


■ 子どもを育てる親は、「基本的な生活習慣」についての学習が必要 ■

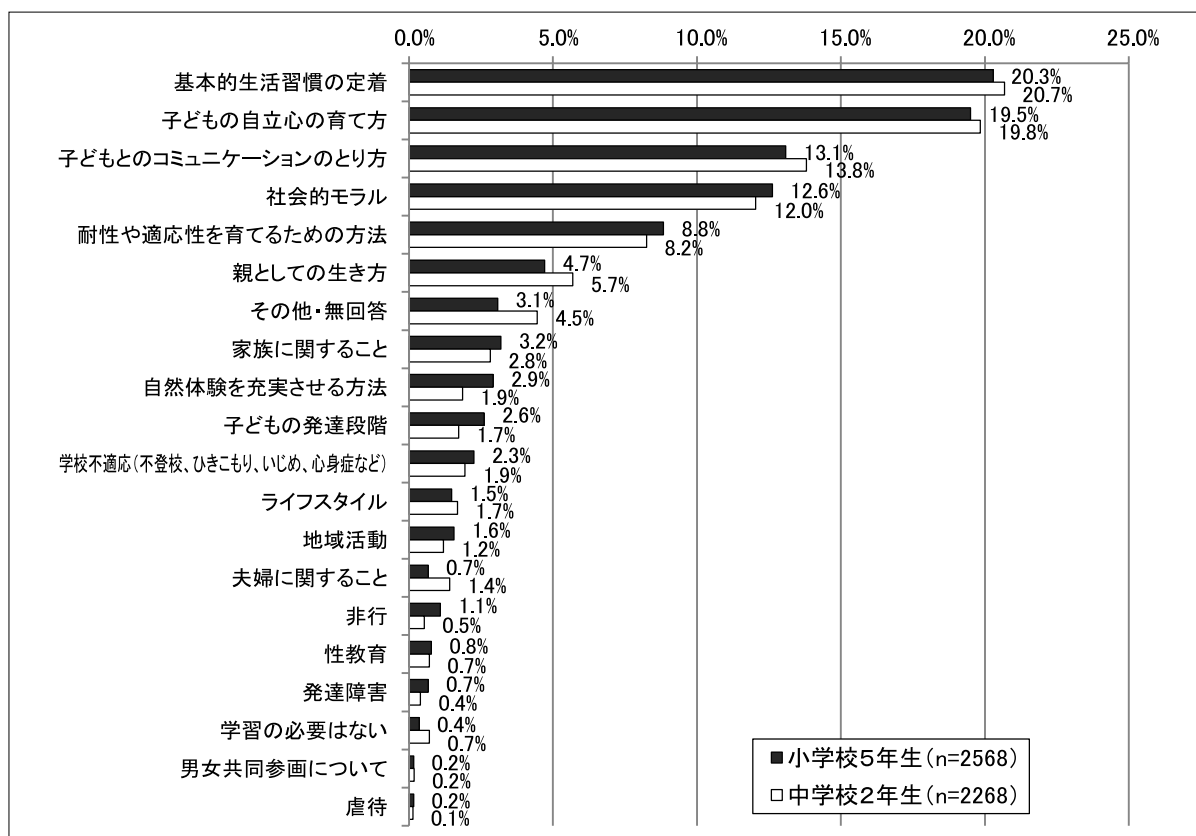
子どもを育てる親にとって必要な学習は、1番目では「基本的な生活習慣の定着」が693人(43.0%)と最も多く、次いで「子どもの自立心の育て方」と「子どもとのコミュニケーションのとり方」が299人(18.5%)となっている。2番目の必要な学習は、「子どもの自立心の育て方」が449人(27.9%)で最も多く、次いで「社会的モラル」が239人(14.7%)であった。3番目の必要な学習は、「社会的モラル」が261人(16.2%)で最も多く、次いで「耐性や適応性を育てるための方法」が232人(14.4%)であった。

性別、学年別での割合差は特にみられなかった。

○性別



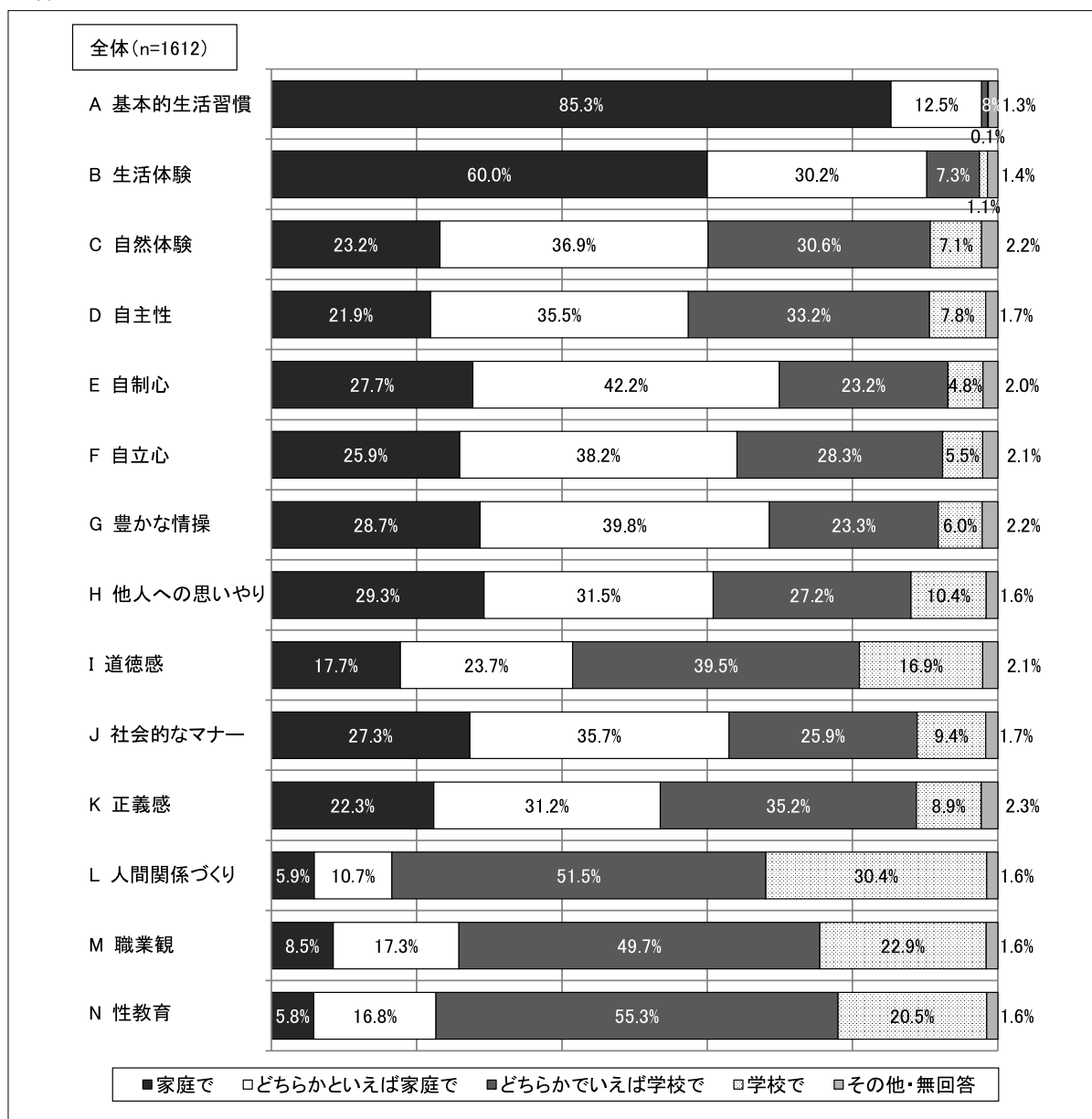
○学年別



性別及び学年別の回答者数は、「1番目に必要だと思う学習」の回答者数と「2番目に必要だと思う学習」の回答者数と「3番目に必要だと思う学習」の回答者数を合わせた人数である。

問19 教育項目について、家庭と学校のどちらでつけさせるほうがよいと思うか

○全体



■ 家庭で重要な教育項目は「基本的な生活習慣」、学校で重要な教育項目は、「人間関係づくり」 ■

家庭でつけさせるほうがよい教育（「家庭で」または「どちらかといえば家庭で」と回答した割合）としては、「基本的な生活習慣」が97.8%と最も多く、次いで「生活体験」が90.2%、「自制心」が69.9%となっている。家庭ではなく学校でつけさせるほうがよい教育（「学校で」または「どちらかといえば学校で」と回答した割合）としては、「人間関係づくり」が81.9%と最も多く、次いで「性教育」が75.8%、「職業観」が72.6%となっている。

性別、学年別での割合差は特にみられなかった。